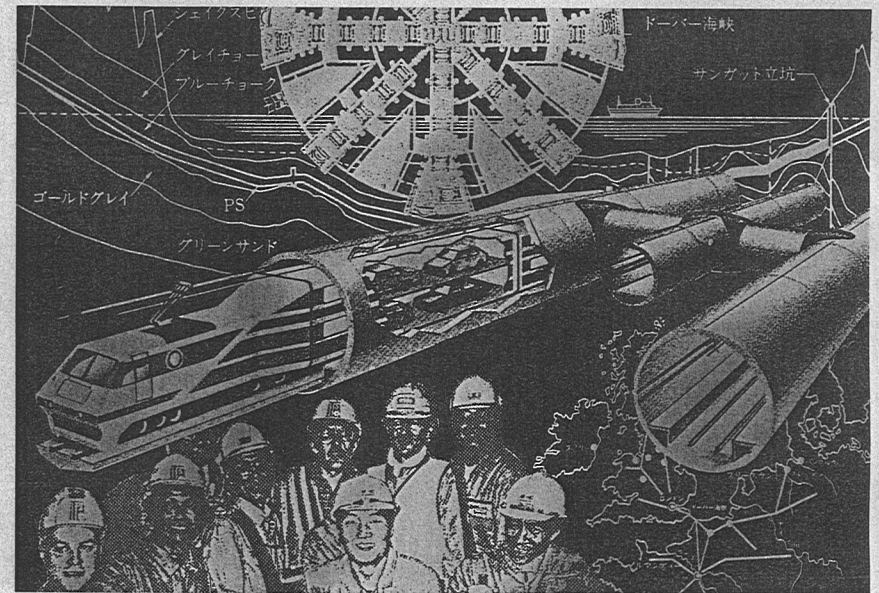


## 大陸を結ぶ海底トンネル●宇賀克夫

27回目の正直/ヨーロッパ200年の夢/鉄のモグラの進化/トンネルの歴史  
掘削機の開発/フランス人とともに/事故と水との戦い/貫通/トンネルの未来

# ドーバー海峡を 鉄道が走る

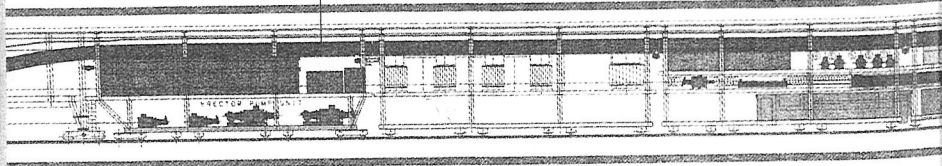


水との戦い……………154  
カッターディスクが割れていた……………161  
掘削の再開から貫通へ……………165

### ⑦ これからの地下開発とトンネル

地下の川……………172  
東京湾横断道路……………177  
これからの日本と世界の海峡横断トンネル……………182  
あとがき……………186

メインコンベア

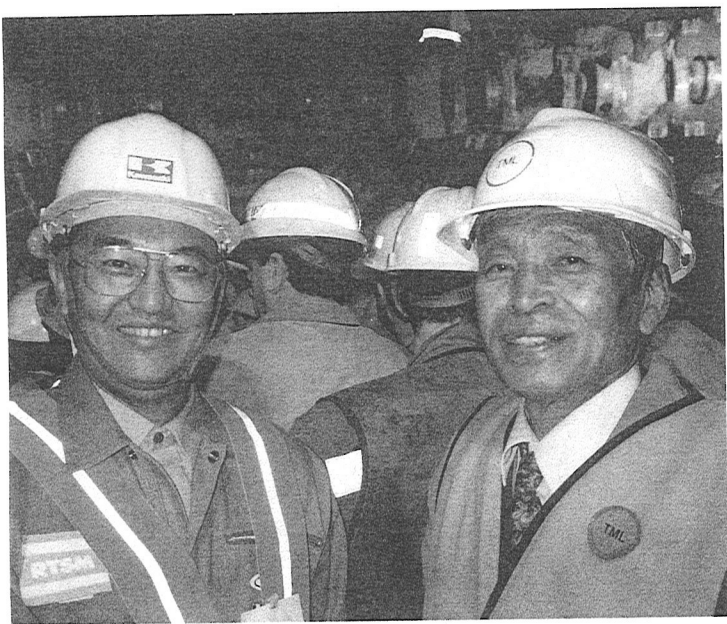


アとアフリカの二大陸を結ぶという、大きな意味があります。

アジアでは、ジャワ島とスマトラ島の間を結ぶスンダ海峡トンネル、北海道とサハリン島を結ぶ宗谷海峡トンネル、シベリアとサハリン島を結ぶ間宮海峡トンネル、日本と韓国を結ぶトンネルなどが考えられています。ロシアとアメリカを結ぶベーリング海峡トンネルなど、ソビエト連邦とアメリカが対立していた時代には想像もできなかった計画が実現するかもしれません。もし実現すれば、このトンネルはユーラシアとアメリカの両大陸を結ぶことになります。

このような海峡トンネルが実現したとすれば、世界の大陸は、オーストラリアを除いて、すべて陸路によって結ばれることになります。そうなれば、船による輸送とちがって、旅客や貨物の高速輸送が可能になります。ガス、石油、電気などのエネルギーも安定して、しかも環境に悪影響をあたえることなく運ぶことができるようになるでしょう。

青函トンネルをほった持田豊さんは、世界が平和であれば、これらのトンネルを使って、砂漠などで行った太陽光発電の電力を人口の多い北半球に運んだり、深夜の余った



筆者（左）と持田豊氏（右）。ドーバートンネルT3貫通式にて

電力を地球の反対側に送ったり、水の豊富などところから少ないところに回すことができ、それによって地球上の対立を少なくすることができると夢をえがいておられます。みなさんの中から、安全に、安くトンネルをほれる、もつとすてきな鉄のモグラのロボットを開発する人が現れ、持田さんの夢が実現されることを願って終わりにいたします。